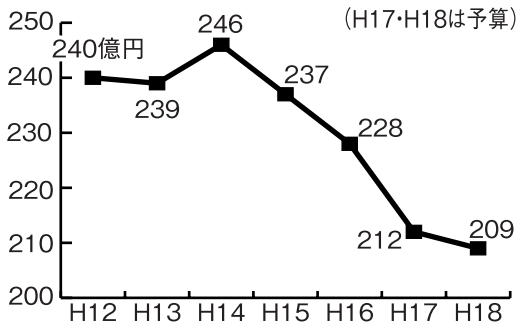


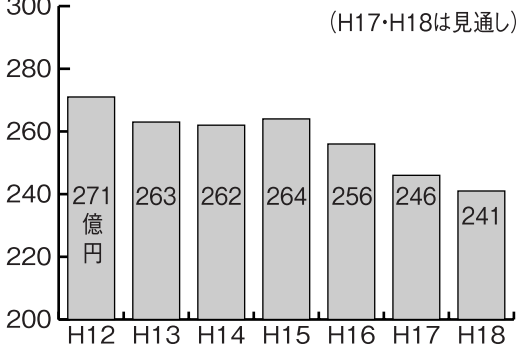
さらなる財政健全化を進めます



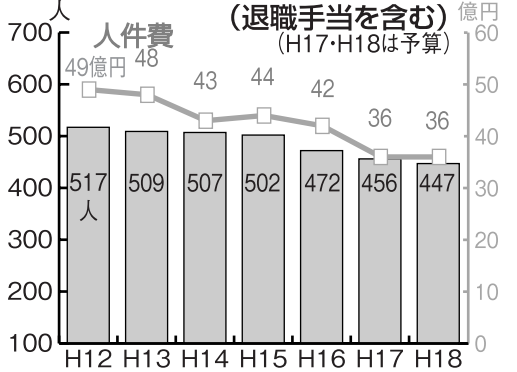
▼【グラフ1】歳出決算額の推移



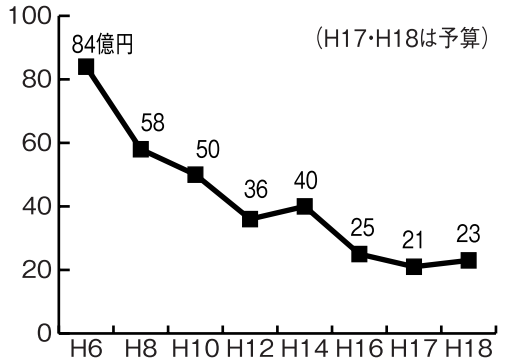
▼【グラフ2】地方債残高



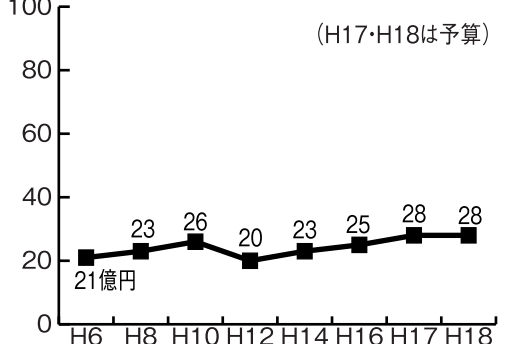
▼【グラフ3】人件費の推移



▼【グラフ4】普通建設事業の推移



▼【グラフ5】扶助費の推移



笠岡市のみならず、国・地方を取り巻く財政状況は、大変厳しいものとなっております。笠岡市では、県下でもいち早く、平成15年度に財政健全化計画を策定し、人件費の見直しなどを行い、最重要課題として、財政の健全化に取り組んでいます。その進捗状況をグラフに表しながら説明します。

まず、グラフ1では、一般会計の歳出決算額を示しています。平成18年度当初予算の総額は、健全な財政基盤の確立に道筋をつける第二歩目として、昨年度に引き続き、さらに抜本的な改革に取り組んだことにより、グラフには示されていませんが、平成4年度あたりの規模になっています。

グラフ2は、地方債残高、いわゆる市の借

金の推移ですが、財政健全化により新たな市債の発行を抑制していることから、着実に減ってきています。

グラフ3は、市職員の人件費と職員数の変化です。職員の採用については、退職不補充を3年間行うことにより50名以上の減、また各種手当のカットなどにより、人件費の抑制に努めています。

グラフ4では、普通建設事業の推移を表しています。笠岡市では、福祉と教育を全面的に推進していることから、普通建設事業などは、早くからその重点化に着手しており、ピーク時の平成6年度に比べ、平成18年度では約4分の1程度となっております。

グラフ5は、扶助費の変化です。扶助費は簡単に言えば、福祉関係の予算です。高齢化の進展や支援費制度により、増加しています。平成12年度の一時的な落ち込みは、介護保険制度の開始によるものです。